

第347回「旧優生保護法による強制不妊手術をめぐる」（7月28日）

話題提供 小森 淳子さん（岐阜協立大学非常勤講師） 17名

コロナ禍により4カ月ぶりの〈サロン9条〉例会でした。

2018年1月末、優生保護法による強制不妊手術の被害者、知的障害のある60代の女性が、仙台地裁にて全国初の国家賠償請求訴訟を起こしました。やまゆり園障害者殺傷事件で日本にはまだ優生思想が残っていると感じたことが訴訟を起こす動機でした。

優生保護法は、1948年（日本国憲法ができた翌年）から1996年まで施行された法律で「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を保護すること」を目的とし（第1条）、「優生」の理念をその名に掲げ、「優生上の見地」からの不妊手術や中絶を合法化した法律でした。

この法律が施行されていた約半世紀の間、その実施件数総計は約845000件に上りました。

優生保護法の原型である戦前の国民優生法は、「産めよ増やせよ」の政策を支える、事実上の「中絶禁止法」でした。しかし戦後、日本は食糧難・住宅難に加え、海外からの復員とベビーブーム、また敗戦と占領にともなうレイプの問題も深刻になり、中絶の規制の緩和を求める声が高まりました。社会党の衆議員議員加藤シズエらによって1947年に提出された優生保護法案の中に、はじめて「不良な子孫」という表現がされました。翌年48年成立したのが優生保護法です。

優生手術の対象になった人たちは、身体障害者、精神障害者、知的障害者、聴覚障害者、ハンセン病患者、そして生活保護家庭や児童養護施設の子どもたちにも及びました。

小森さんは岐阜県優生保護審査会の資料から、生々しい5つの事例を示され、次のようにその特徴をまとめられました。

- ◆ 遺伝性かどうかの判定があいまいで、障害＋貧困が根拠の事例が多い。
- ◆ 対象になった障害名は「精神薄弱」が多い。
- ◆ 被害者は81%が女性である。（全国の平均は7割が女性）
- ◆ 精神障害は産後鬱や戦争によるPTSDが疑われる事例が多い。
- ◆ 最年少は12歳の女子。
- ◆ 女性被害者に対しては「生理時の介助が大変だから」、男性被害者に対しては社会防衛・思想的な申請理由が多い。

この優生保護法が、障害のある人から子どもを産み育てる生き方と自己決定権を奪い、現代の障害者差別と優生思想を生み出し、とくに障害者のセクシュアリティを否定してきたのです。

1996年、優生保護法は消滅し、母体保護法に代わりました。しかし、行政のバックアップのもとで羊水検査が導入され、「不幸な子どもがうまれない運動」（1966～72）を媒介として、今も出生前診断・着床前診断の中に生き残っていると指摘されました。

参加者から質問や感想が述べられました。

- ・ 1948年～96年までの数字の根拠は？ → 厚労省のHPから
- ・ 岐阜県では、強制不妊手術を積極的にすすめようとしていたのか？→競争させていた。

- 全国は黒塗り資料が多いのに岐阜の資料は黒塗りが無いのは？→ 関心を持ち資料請求する人がいなかった。
- 小森さんの話はリアルでショックが大きかった。  
子どものころ聴覚障害のあった叔父が二人目の子どもができないようにしていた。子どもながらに何故か祖母に聞いたことがある。
- 差別と命の選別は、今の時代にもある。
- よく知らなかったなので、聞いてよかった。「優生保護法」の言葉はどこからきたのか？ 明治以降に出てきた言葉だと思うが、江戸時代まではどうだったのか？ 今も障害者を隠すようなところがある。国家の国民コントロールは今も全く変わっていない。  
→「優生保護」の言葉はアメリカから。動物の優秀な種を残すという「優生学」という学問から。ナチスの優生思想も障害者差別がひどかった。福祉国家スウェーデンにも優生法があった。しかし戦後欧米では人権思想がひろがった。日本は遅れている。原始時代は障害者差別がなかったことが遺跡からわかっている。中世では知的障害者が生まれるとその家は繁栄するといわれていた。明治になって「富国強兵」の時代になり、障害者は価値のない人間とされ、岐阜空襲の時には障害者が防空壕の一番前に座らされて「蓋の役割」をされたこともあった。現在、出生前診断で障害が分かると大半の人は墮胎するという、優生学を自発的に受け入れる状況がある。
- コロナ禍がまさに生産性を大事にする今の世の中の在り方を問うている。憲法ができた翌年に優生保護法ができたということに衝撃を受けた。その当時、どのような議論があったのか？ →議論はなかった。
- 話を聞いてショックを受けた。重度障害の息子と共に生きている。やまゆり園の事件、医者2人による殺人・・・優生思想がうずまいている。
- 自発的優生思想の広がり・・・自分で命の選択を行ってしまっている。
- 歴史上有名な人たちは多くは優生思想を持っていた。兵役検査で甲乙丙のランク付けがされ、乙はほとんど障害を持つ人だった。

最後に司会者は、我々には「内なる優生思想」があり、それは根深い。もっと議論して、人権思想を身に着ける必要があるとまとめました。